

2020年（令和二年） 7月31日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.iecej.or.jp>

■ 概況

7/16~7/22のNYMEX・WTI先物市場は、40.59~41.96ドルの範囲で推移した。

7月23日は、前日発表の米国原油在庫の増加、米中外交関係の緊張、米国南部・東部を中心とする新型コロナの感染再拡大の動き等を背景に、続落した。9月限終値は前日比0.83ドル安の41.07ドル。

週末24日は、同日、中国政府は在ヒューストン中国総領事館閉鎖の対抗措置として、在成都米国総領事館の閉鎖を命令、米中外交関係の悪化懸念で売りが先行したものの、為替市場でドル安が進んだことで、原油先物の割安感から、買戻しが入り、3日ぶりに反発した。この日ペーカークヒューズ社発表の米国稼働石油掘削機は181基と19週ぶりに前週比1基増加した。9月限の終値は前日比0.22ドル高の41.29ドル。

週明け27日は、週末に続き、ドル安を背景に買い進まれ、続伸した。ただ、米中外交関係悪化、新型コロナの感染再拡大の懸念から、上値は重かった。9月限終値は前週末比0.31ドル高の41.60ドル。

28日は、この日発表の米国消費者景気指数が予想を下回ったことや感染再拡大による石油需要減退懸念を受けて、3営業日ぶりに反落した。ただ、為替相場のドル安に伴う原油先物の割安感が底値を支えた。9月限終値は前日比0.56ドル安の41.04ドル。

29日は、この日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の週報で、前週末の原油在庫が前週末比1060万バレル減少と市場予想に反して大幅な取り崩しとなり、反発した。ただ、製品在庫はガソリン、中間留分とも小幅な積み増しとなった。9月限の終値は前日比0.23ドル高の41.27ドル。

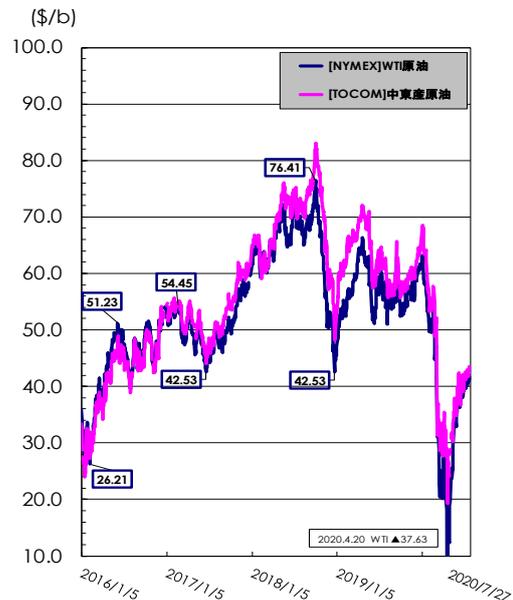
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(9月渡し)は7月16日~22日の間42.50~44.30ドルの範囲で推移した。7月27日43.20ドル、28日43.60ドル、29日43.00ドルと推移した。

為替は7月16日~22日の間106.89~107.52円の範囲で推移した。7月27日105.82円、28日105.34円、29日105.14円で推移した。

財務省が7月20日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、6月下旬の原油輸入平均CIF価格は、17,386円/klで、前旬比1,218円高、ドル建て25.70ドルで前旬比1.93ドル高、為替レートは1ドル/107.57円。また、同日発表の貿易統計(速報・旬間)によると、6月の原油輸入平均CIF価格は、16,538円/klで、前旬比306円安、ドル建て24.40ドルで前旬比0.61ドル安。為替レートは1ドル/107.76円。

そのような中で、7月27日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.1円の値上がり、軽油は横ばい、灯油も横ばい(18日ベース)だった。ガソリンは11週連続の値上がり、軽油は11週ぶりに値上がりが止まり、灯油も10週ぶりに値上がりは止まった。この週(7月第4週)の指標原油価格の円建てコストはほぼ横ばいであったが、産油国の減産に伴う調整金の引き上げが反映された模様で、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに全社前週比4.0円の引き上げになったと見られる。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	7/19 ~ 7/25	2,357 ▲13	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	60.2 ▲0.3	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	7/25	13,095 ▼254	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	7/27	42.73 ▲1.03	▼ -18.1
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	7/27	41.60 ▲0.79	▼ -15.3
	原油CIF単価 (\$/bbl)	6月下旬	25.70 ▲1.93	▼ -47.38
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	17,386 ▲1,218	▼ -32,753
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	107.57 ▲0.60	▲ 1.50
	外国為替TTSレート (¥/\$)	7/27	106.82 ▲1.70	▲ 2.63



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	7/19 ~ 7/25	859 ▲ 40	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	883 ▲ 147	▲ -	
	輸出	"	51 ▲ 51	▲ -	
	在庫	7/25	1,669 ▼ -75	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	7/21 ~ 7/27	41.4 ▼ -0.3	▼ -17.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	7/21 ~ 7/27	40.8 ▲ 0.8	▼ -14.8
		(TOCOM/中部)	7/27	41.7 ▲ 0.5	▼ -14.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/27	132.3 ▲ 0.1	▼ -13.4	

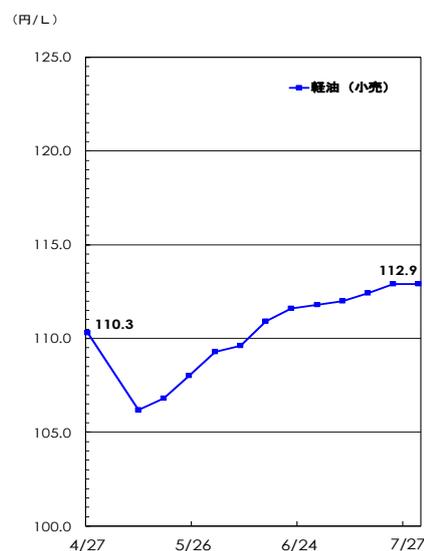
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

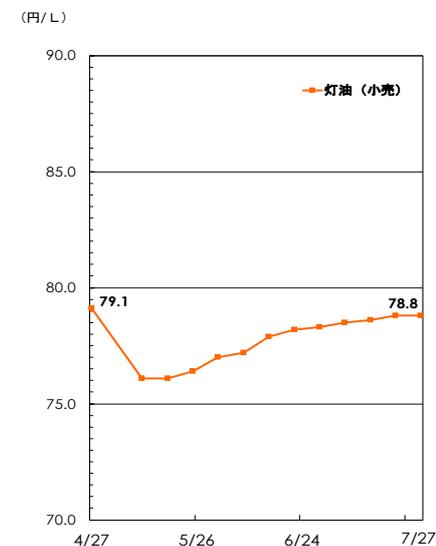
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	7/19 ~ 7/25	617 ▼ -38	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	484 ▼ -73	▼ -	
	輸出	"	119 ▲ 67	▼ -	
	在庫	7/25	1,646 ▲ 13	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	7/21 ~ 7/27	43.2 ▼ -0.3	▼ -18.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	7/21 ~ 7/27	47.3 ▲ 0.4	▼ -15.2
		(TOCOM/中部)	7/27	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/27	112.9 ➡ 0.0	▼ -13.9	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	7/19 ~ 7/25	168 ▲ 26	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	101 ▲ 27	▲ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	7/25	1,924 ▲ 68	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	7/21 ~ 7/27	43.1 ▼ -0.2	▼ -16.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	7/21 ~ 7/27	42.6 ▲ 1.2	▼ -15.9
		(TOCOM/中部)	7/27	44.0 ▲ 1.0	▼ -16.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/27	78.8 ➡ 0.0	▼ -12.3	



■ 関連情報

1 海外/原油

7月29日のNYMEX市場WTI先物原油は、この日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の週報で、前週末の原油在庫が前週末比1060万バレル減少と市場予想(40万バレル増)に反して大幅な取り崩しとなり、コロナ感染再拡大の中でも需要は堅調であるとの見方から反発した。ただ、小幅に減少すると見られた、製品在庫はガソリン、中間留分とも小幅な積み増しとなった。この日、米国連邦準備制度理事会(FRB)が現行金融緩和政策の継続を決定したが、想定内であるとしてほとんど影響はなかった。9月限の終値は前日比0.23ドル高の41.27ドル、10月限の終値は同0.26ドル高の

41.54ドル。

EIAによると、7月27日時点のガソリンの小売価格は、前週比1.1セント値下がりの1ガロン2.175ドル(61.3円/ℓ)、ディーゼルは同0.6セント値下がりの2.427ドル(69.2円/ℓ)になった。ガソリンは2週連続の値下がり、ディーゼルも2週連続の値下がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2020年7月19日~7月25日に休止したトッパー能力は67.9万バレル/日で、前週に対して2.2万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は235.7万klと、前週に比べ1.3万kl増加。前年に対しては106.2万klの減少。トッパー稼働率は60.2%と前週に対して0.3ポイントの増加、前年に対しては27.1ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、灯油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/4.9%増、ジェット/23.4%減、灯油/18.0%増、軽油/5.9%減、A重油/4.5%減、C重油/29.1%減。今週のC重油の輸入は2.0万kl(前週比0.5万kl増)。軽油の輸出は11.9万kl(前週比6.7万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でガソリン、灯油、A重油が増加となり、その他の油種で減少となった。前年比ではガソリン、灯油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は88.3万kl(対前週19.9%増)と3週振りで増加となり、49週連続で100万klを下回った。ジェット10.3万kl(対前週28.4%減)、灯油10.1万kl(対前週36.9%増)、軽油48.4万kl(対前週13.1%減)、A重油15.0万kl(対前週11.5%増)、

C重油13.0万kl(対前週11.2%減)。

(単位:千KL)

	今週 (7/19 ~ 7/25)	前週 (7/12 ~ 7/18)	前週比	
ガソリン	883	736	▲ 147	(20%)
ジェット燃料	103	144	▼ -41	(-28%)
灯油	101	74	▲ 27	(36%)
軽油	484	557	▼ -73	(-13%)
A重油	150	134	▲ 16	(12%)
C重油	130	147	▼ -17	(-12%)
合計	1,851	1,792	▲ 59	(3%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

7月25日時点の在庫は、灯油、軽油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

前年に対してはジェット、C重油が減少となり、その他の油種で増加となった。

ガソリンは166.9万kl、前週差7.5万kl減。前年に対しては10.8万kl多い。

灯油は192.4万kl、前週差6.8万kl増。前年に対しては11.3万kl多い。

軽油は164.6万kl、前週差1.3万kl増。前年に対しては15.9万kl多い。

A重油は74.2万kl、前週差2.2万kl減。前年に対しては3.8万kl多い。

C重油は194.6万kl、前週差1.7万kl減。前年に対しては2.2万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (7/25)	前週 (7/18)	前週比	
ガソリン	1,669	1,744	▼ -75	(-4%)
ジェット燃料	703	713	▼ -10	(-1%)
灯油	1,924	1,856	▲ 68	(4%)
軽油	1,646	1,633	▲ 13	(1%)
A重油	742	764	▼ -22	(-3%)
C重油	1,946	1,963	▼ -17	(-1%)
合計	8,630	8,673	▼ -43	(-0.5%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

7月21日～27日の原油価格は前週比でわずかに値上がりし、為替レートは円高で、指標原油価格の円建てコストはほぼ横ばいであったと見られる。

ただ、月初の卸価格改定で反映されると言われている、サウジアラビア等産油国の協調減産の拡大に伴う調整金

の大幅引き上げ分が加味された模様で、次週の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに全社、4.0円の引き上げになったと見られる。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

7月21日～27日の製品スポット市況は、7月14日～20日平均と比べ、陸上全油種と海上ガソリンで小幅値下がりであったが、その他の取引では値上がりとなった。

直近(7/21～7/27)の陸上スポット価格平均値(千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格)は、前週比で、ガソリンは0.3円の値下がり、灯油は0.2円の値下がり、軽油は0.3円の値下がりだった。直近(7/21～7/27)において、ガソリンは95円台でわずかに値下がり、灯油は43円台でわずかに値上がり、軽油は43円台で値下がりして推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、同期間、前週比で、ガソリンは0.1円の値下がり、灯油は1.0円の値上がり、軽油は1.7円の値上がりだった。海上スポット価格は、同期間に、ガソリンは96円台でわずかに値下がり、灯油は39～42円台で大きく値上がり、軽油は45～50円台で大きく値上がりして推移した。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは0.8円の値上がり、灯油は1.2円の値上がり、軽油は0.4円の値上がりだった。先物価格は、同期間に、ガソリンは93～95円台で一時大きく値上がり後やや値下がり、灯油41～43円台で大きく値上がり、軽油46～47円台で大きく値上がり後やや値下がりして推移した。

(RIM) (単位: 円/%)

陸上ローリー 4地区平均]	今週 (7/21～7/27)	前週 (7/14～7/20)	前週比
	レギュラー	41.4	41.7
灯油	43.1	43.3	▼ -0.2
軽油	43.2	43.5	▼ -0.3

(TOCOM) (単位: 円/%)

先物価格 [平均]	今週 (7/21～7/27)	前週 (7/14～7/20)	前週比
	レギュラー	40.8	40.0
灯油	42.6	41.4	▲ 1.2
軽油	47.3	46.9	▲ 0.4

※上記価格は税抜き価格

参考値 (7/21～7/27実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.3	▲ 0.8	▲ 0.2
灯油	▼ -0.2	▲ 1.2	▲ 0.5
軽油	▼ -0.3	▲ 0.4	▲ 0.1
A重油	➡ 0.0		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

7月27日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円高の132.3円、軽油は同横ばいの112.9円、灯油は18%ベースで同横ばいの1,419円(1%ベースでは同横ばいの78.8円)。ガソリンは11週連続の値上がり、軽油も11週ぶりに値上がりが止まり、灯油も10週ぶりに値上がりがとまった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは19都県、横ばいは8道県、値下がり20府県となった。全国最安値は徳島県の124.8円(同1.3円高)、その次に安いのが岡山県の124.9円(同0.5円高)、最高値は長崎県の143.1円(同0.9円高)。最も値上がりしたのは、同1.3円高の徳島県(124.8

円)、横ばいは滋賀県ほか、最も値下がりしたのは、同1.1円安の埼玉県(127.3円)だった。

先週の原油コストはわずかに値上がりし、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油とも、全社据え置きとなった。今週は、原油価格はわずかに値上がりし、為替レートは円高で、指標原油価格の円建てのコストはほぼ横ばいであった。ただ、次週適用の元売の卸価格は、産油国の調整金の大幅引き上げが反映された模様で、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社4.0円の引き上げとなった。次回調査時(8月3日)のガソリンの小売価格は値上がりが予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (7/27)	前週 (7/20)	前週比	直近高値
レギュラー	132.3	132.2	▲ 0.1	08/8/4 185.1
灯油	78.8	78.8	➡ 0.0	08/8/11 132.1
軽油	112.9	112.9	➡ 0.0	08/8/4 167.4

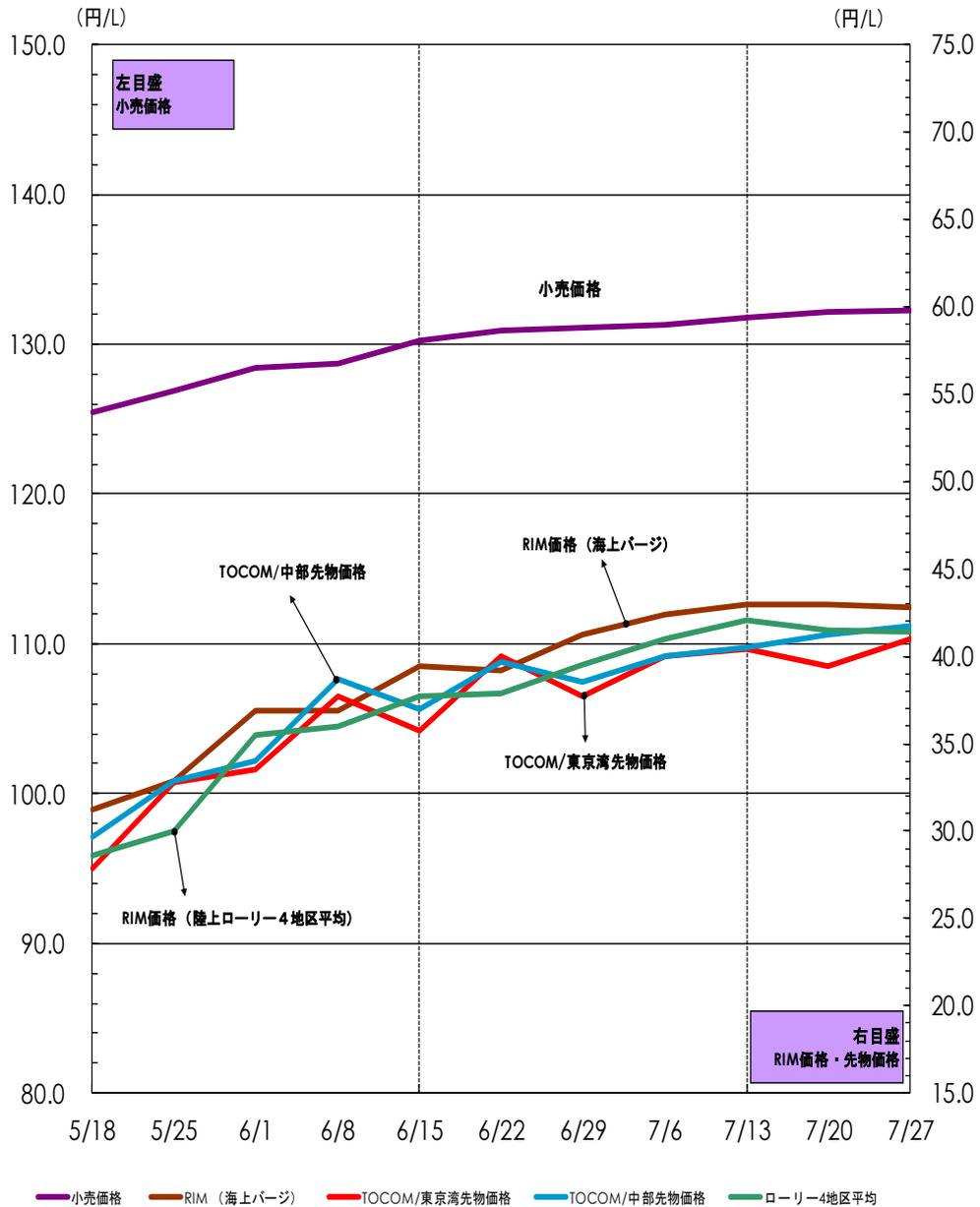
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2020/5/18 ~ 2020/7/27)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2020第7号)の公表は、8/7(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(令和元年9月末現在)は、12月25日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。